令和8年10月6日　田園調布中学校　自閉症・情緒障害特別支援学級開設説明会質疑応答

| 番号 | 質問 | 回答 |
|---|---|---|
| 1 | 田園調布中学校は、障がいのある子のための学校になるのでしょうか。 | 今回の自閉症・情緒障害特別支援学級の開設により、田園調布中学校そのものが“障害のある子のための学校”になるということではありません。ご質問の内容は、障害者等への教育そのものを目的に設置される特別支援学校を意味するものと考えます。<br><br>今回設置する特別支援学級（固定学級）は、特別な支援が必要な生徒の適切な学びの場として、通常の区立小中学校の中に設置するものであり、すでに区立小中学校では、知的障害特別支援学級や自閉症・情緒障害特別支援学級が、計31校に設置（開設予定1校含む）されています。<br><br>なお、現在のパソコン室を自閉症・情緒障害特別支援学級の教室、生徒会室を自閉症・情緒障害特別支援学級の教員室とすることを予定しております。 |
| 2 | なぜ、田園調布中学校に自閉症・情緒障害特別支援学級を開設するのでしょうか。田園調布中学校の生徒が減少しているため、生徒を増やすための措置ではないのか。 | 現在、自閉症・情緒障害特別支援学級は、蒲田中学校1校のみに設置しています。<br>令和9年度の自閉症・情緒障害特別支援学級の利用希望者に対し、蒲田中学校の受入可能人数だけでは、不足することが見込まれており、区立中学校への新たな開設が必要となりました。<br><br>利用希望者の状況（多摩川線沿線が多い等）と通学負担、区内の地域バランス（調布地域・大森地域への設置が望ましい）に加え、特別支援学級の設置状況や学校施設面などを総合的に勘案して判断しました。<br><br>今回の開設は、田園調布中学校の生徒数減少に対応するためのものでは決してありません。区内において、こどもたちの一人ひとりの特性やニーズに寄り添い、必要な支援につながる環境を整え、学びの選択肢を広げていく取組の一環です。 |
| 3 | 蒲田中学校の自閉症・情緒障害特別支援学級を卒業する生徒もおり、新たに入級可能な人数はそれなりにあるのではないか。いままで設置されていない学校に設置する必要はないのではないか。 | 現在、蒲田中学校には3学級24名の生徒が在籍していますが、利用希望者の増加を踏まえ、令和9年度は1学級増やして4学級32名の定員とする予定です。<br><br>卒業や転出の可能性もありますので、在籍者数は変動し得ますが、32名の定員から在籍者数を差し引いた人数が、令和9年度蒲田中学校の入級可能枠になります。<br><br>現時点の利用希望者の人数は、蒲田中学校における学級増及び卒業生の見込みを考慮したとしても、蒲田中学校の入級可能枠を大きく上回る見込みであり、新たな開設は必要な状況です。<br><br>教育委員会としては、自閉症・情緒障害特別支援学級だけでなく、知的障害特別支援学級も含め、今後も特別支援教育のニーズは増え続けると見込んでおり、現在特別支援学級が設置されていない区立小中学校には、今後なんらかの特別支援学級を、段階的に整備していく必要があると考えております。 |
| 4 | 学校行事は交流学習となりますか。また、交流学習の効果はどのようなことが見込まれるでしょうか。 | 学校行事については、基本的に交流学習の実施を想定しています。具体的な実施内容については、生徒の実態や安全面への配慮、ならびに保護者の方との調整を踏まえ、適切に進めていきます。なお、授業における評価については、原則として当該学年の評価基準に沿った評価と所見となります。<br>交流学習の実施により、他の学級や学校との関わりの中で相互理解が深まること、互いの違いを認め合いながら協働する経験が得られること、さらに日常の集団生活における適応力やコミュニケーションの向上が等が見込まれます。 |
| 5 | 具体的な交流学習の事例を教えてください。 | 運動会や合唱コンクール、社会科見学等の行事や実技教科等の一部の授業は、交流及び共同学習としている事例があります。 |
| 6 | 田園調布中学校の受入可能人数（定員）はどのくらいでしょうか。 | 自閉症・情緒障害特別支援学級は、1学級8名が定員と定められています。<br>田園調布中学校では、2学級16名を定員として、開設準備を進めております。<br>なお、定員は3学年合わせての人数となります。 |
| 7 | 教員や支援員は何名配置になりますでしょうか。 | 教員については、原則として学級数に応じた配置に加え、追加で1名の配置を予定しています。<br>一方、介添員（支援員）を含む具体的な配置人数については、学級数等に応じて決定するため、新年度開始後に確定となります。<br>教員の他に、必要に応じて講師の配置を行うことがあります。 |

| | | |
|---|---|---|
| 8 | 自閉症・情緒特別支援学級の担任は、現在田園調布中学校で勤務している通常の学級の教員がなるのでしょうか。 | 人事のことですので、確実なことは申し上げられないと考えておりますが、通常の配置人数に追加して、質問7に回答した人数の教員が配置される予定です。<br>これまでの開設時の状況では、特別支援学級の教員は、特別支援学級等の経験を積んだ教員が配置されている傾向にあります。 |
| 9 | 起立性調節障害のあるお子さんもいると思いますが、登校時間は通常の学級と同じでしょうか。 | 自閉症・情緒障害特別支援学級の入級対象は、自閉症又は情緒障害があるお子さんが対象です。情緒障がいは、選択性緘黙又は場面緘黙を指しています。<br>単独の病名が起立性調節障害では、入級対象になりません。<br>時程は通常の学級と同様です。 |
| 10 | 卒業後の進路について過去の事例を教えていただきたいです。 | 昨年度、蒲田中学校の自閉症・情緒障害特別支援学級から2名卒業しましたが、2名とも高校へ進学しています。<br>なお、高校入試で不利益を被ることは一切ありません。 |
| 11 | 自閉症・情緒特別支援学級の開設にあたってのメリット、デメリットをどのように考えているか教えていただきたいです。 | 特別な支援を必要とする生徒が、将来の生活に向けて必要となる「他者との関わり方」や「コミュニケーションの力」を、個々の状態に応じて着実に伸ばしていけるようにすることが、特別支援学級開設の大きな意義であると考えています。<br>また、交流及び共同学習等により様々な人との関わりが増えることで、障がいのある生徒とない生徒の相互理解が深まり、集団生活の中での適応や成長につながるものと考えています。加えて、教員や支援員にとっても、児童生徒の成長を専門性をもって支える中で、やりがいをもって指導・支援を進められる場となると見込まれます。<br><br>一方、最初は「抵抗感」や「不安」を感じる方が一定数出る可能性があると認識しています。開設後の運営において、個々の生徒の状態に応じた支援を徹底しつつ、交流及び共同学習等を通じて相互理解を着実に深めていくことで、周囲の皆様に対して「生き生きと学んでいる姿」が伝わり、時間の経過とともに理解が広がっていくものと考えています。 |
| 12 | 区内における特別支援学級の設置状況が一目でわかる地図のようなものがあると良い。 | 区内の特別支援学級の設置状況がわかる地図を区ホームページに掲載いたします。 |
| 13 | 自閉症・情緒障害特別支援学級への入級は学年の途中ではできないのか。 | 自閉症・情緒障害特別支援学級については、現在設置校と定員が限られていることから、新学年開始のタイミングでの入級のみとさせていただいております。 |
| 14 | 次回以降の会議は単なる回数稼ぎではなく、位置付けを明確にして欲しい。<br>2回目　初回の回答編として、今回のスライド資料（抜粋でも可）を関係者全員が事前に共有できるなどして、前段の説明は最小に抑え、今回の回答編として初回の質疑や要望への返答を中心に進めて欲しい。<br>3回目　最終回答としてもう少し時間を取り、質疑や要望に対して出来る限りの審議を尽くしてほしい。 | 今後の説明会での参考にさせていただきます。<br>各説明会でいただいたご質問については、要旨をまとめて次回の説明会までに区ホームページに掲載し、あらかじめご確認いただけるようにさせていただきます。<br>説明会当日のご説明については、各回初めてご参加される方も多数いらっしゃると思われるため、必要以上に説明を省略することは困難ですが、端的かつ要点を押さえた説明を心がけたいと思います。 |
| 15 | 質疑書は最終的には全ての父兄が共有できるものとし、審議の経過が分かる体裁にしてほしい。 | 説明会に出席できなかった皆様にもご理解いただけるよう、各回の質疑については要旨をまとめ、区ホームページに掲載をさせていただきます。 |